

第8回 日本静脈経腸栄養学会 九州支部学術集会

会期：2016年10月15日（土）

会場：JR HAKATA CITY JR九州ホール[9F]

当番世話人：岩坂 日出男

（大分市医師会立アルメイダ病院 麻酔科部長 兼 集中治療部部長）

9:30~9:35(5分)	開会の辞 当番世話人：岩坂 日出男（大分市医師会立アルメイダ病院 麻酔科部長 兼 集中治療部部長）
9:35-10:25(50分)	教育講演 1 集中治療における薬剤師の役割と栄養管理 入江 利行（小倉記念病院 薬剤部 部長） 司会：霧 知光（聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長 副院長）
10:25-11:25(60分)	特別講演 重症患者の病態生理からみた栄養管理の意義と実践 西田 修（藤田保健衛生大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座 主任教授、集中治療部 部長） 司会：田中 芳明（久留米大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授）
11:25-12:00(35分)	休憩（+世話人会：会議室3）
12:00-12:50(50分)	ランチョンセミナー 周術期栄養療法の未来展望 岩坂 日出男（大分市医師会立アルメイダ病院 麻酔科部長 兼 集中治療部部長） 司会：田中 芳明（久留米大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授） 共催：株式会社陽進堂
12:50-13:00(10分)	総会 当番世話人：岩坂 日出男（大分市医師会立アルメイダ病院 麻酔科部長 兼 集中治療部部長）
13:00-14:00(60分)	一般演題（10分x6題）（口演6分、質疑4分） 座長：野上 哲史（熊本第一病院 院長）、海塚 安郎（製鉄記念八幡病院 救急・集中治療部 部長） 1 下肢皮膚潰瘍に対してコラーゲンペプチドを付加し改善が得られた一症例 小園裕子、塩山美穂、白石 亘、枝國節雄 （久留米総合病院NST） 2 経管栄養併用により2度の消化管バイパス術を施行しえた慢性心不全合併下部胆管癌の1例 真田雄市、舩元章浩 （社会医療法人大成会福岡記念病院 肝臓内科・外科、循環器内科） 3 ビタミンB₁量表記に対する考察 医薬品-静脈栄養 野田 武、長谷川正光 （大分県勤労者医療生活協同組合 大分協和病院、刈谷豊田総合病院高浜分院） 4 大腸癌手術におけるSSI発生要因の解析 土居浩一、北村文優、石踊裕之、松永安奈、迫分 彩、岸田真治、糸田恵美、大地哲史 （宮崎県立延岡病院 外科、栄養管理科） 5 人工臓器を用いた血糖管理の有用性について 板井規夫、葛城 功、姫野加代、清松美枝子、岩坂日出男 （大分市医師会立アルメイダ病院 臨床工学部 栄養管理科） 6 高齢者NST患者の経口栄養継続支援への現状と課題 岩屋祐子、長嶋フクエ、石橋喜子、塩塚良江、神代明美、立野順子、霧 知光 （聖マリア病院）
14:00-14:15(15分)	休憩
14:15-15:05(50分)	教育講演 2 術後合併症とNSTの役割 白尾 一定（独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 院長） 司会：伊東 弘樹（大分大学医学部附属病院 薬剤部 部長）
15:05-15:55(50分)	教育講演 3 地域の急性期病院でのNST活動とその役割 田崎 亮子（新別府病院 栄養管理室長） 司会：一ツ松 薫（新古賀病院NST事務局）
15:55-16:00(5分)	次期当番施設挨拶 当番世話人：霧 知光（聖マリア病院 臨床・教育・研究本部長 副院長） 閉会の辞 当番世話人：岩坂 日出男（大分市医師会立アルメイダ病院 麻酔科部長 兼 集中治療部部長）

第8回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を終えて

10月15日の土曜日、快晴の秋の日に第8回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を開催させていただきました。今年は、熊本・大分大地震、台風による豪雨など震災に見舞われた九州地方ではありますが、多くの皆様に参加していただきました。参加者は総勢613名と盛大な会となりました（参加者内訳 医師 27, 薬剤師 147, 管理栄養士 175, 栄養士 2, 看護師 188, 臨床検査技師 14, 歯科医師 1, 言語聴覚士 18, 理学療法士 13, 作業療法士 6, 臨床工学技師 1, 歯科衛生士 3, 学生 14, その他 4）。参加された皆さまの中にはご本人やご親族、ご関係者が被災された方もいらっしゃるのではないかと存じます。心からお見舞い申し上げます。またご多忙の中、被災された地域へといち早く支援に回られた会員の皆様には敬意を表します。

今回の学術集会では『重症患者の栄養管理を科学的に見る』をテーマに特別講演および教育セミナーを企画させていただきました。特別講演を賜った藤田保健衛生大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座教授 西田 修 先生の御講演は集中治療の醍醐味を多いに展開された内容であり、その中での集学的治療に占める栄養療法の意義の重要性を提示された御内容でした。御講演後は会員の皆さまの間から「すごかったね」という声が聞こえてきました。栄養療法の持つ無限の可能性に会員一同刺激を受けたのではないかと思います。教育セミナーでは入江利行先生から集中治療室での薬剤師の持つ役割と今後の展開を、白尾一定先生からは周術期の栄養量療法をバトンパスを行うように円滑に実施することでの合併症予防を、田崎亮子先生からは多職種、多スタッフで栄養療法のスキルを駆使することにより重症患者を守り、地域医療に貢献することの重要性を、それぞれ力強く講演していただきました。きっと多職種が最も参加する当学術会議の真の開催意義に迫れたのではないかと考えています。

重症患者さんの全身管理では呼吸・循環・鎮静などの面では科学的、臨床的エビデンスが積み重ねられ日常臨床へと応用されてきています。一方、栄養療法では免疫、生化学、分子生物学的側面からの解析も進んできていますが、臨床応用に関しては未だ確立したエビデンスが豊富とは言えない一面があります。これまで積み上げてこられて先人達の肩に乗せていただき、会員の皆さまと協力して新たな一歩を踏み出す契機となる学術会議として終えることができたのなら代表世話人として本望です。本会員の皆さまのさらなるご発展、ご健勝を祈念しております。

最後になりましたが、田中芳明教授を初め、九州支部会事務局の方々のおかげで無事に本学術集会を終えることが出来ましたことに厚く御礼申し上げます。

第8回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会
当番世話人 大分市医師会立アルメイダ病院
麻酔科部長兼集中治療部部長 岩坂日出男